

関西大学工学部 正会員 ○島田広昭

関西大学工学部 正会員 井上雅夫

関西大学工学部 草加和也

1. まえがき

本研究の目的は、海岸利用者の海岸環境整備事業に対する評価を明らかにし、今後の整備事業のあり方を検討しようとするものである。具体的には、海岸環境整備事業が終了して約4年が経過した貝塚市の二色の浜海水浴場における海岸環境とそれに対する利用者意識に関する現地調査を行い、これらの調査結果と海岸環境整備事業前の1986年、事業実施中の1990年および整備事業終了直後の1996年に著者らが実施した同様な調査の結果との比較を行った。

2. 現地調査の概要

調査は、二色の浜海水浴場において、2000年8月5日（土）、6日（日）および8日（火）の土曜日、日曜日および平日が各1日ずつの合計3日間、実施した。アンケートによる意識調査は、海岸環境とそれに対する利用者意識に加え、整備事業によって改良された点などの事業評価について、海水浴場の混み具合がほぼ一定となる各調査日の12時から15時にかけて直接面接法により行った。なお、調査対象者数は、平日が152名（男：74名、女：78名）、土曜日が197名（男：95名、女：102名）、日曜日が192名（男：98名、女：94名）の合計541名であった。

3. 調査結果および考察

図-1は、「この浜が養浜されたことを知っていますか」という質問に対する回答であり、二色の浜海水浴場の養浜の認識度を示したものである。二色の浜海岸は1966年に我が国初の養浜が行われた海浜であるが、これによると、「知っている」と答えた人は最初に養浜されてから約20年が経過した1986年が32%、1990年が55%、1996年が41%、2000年が28%となっており、被調査者に10歳代の中・高校生が約2割含まれていることを考慮すると、かなり認識されているものと思われる。また、認識度は事業実施中やその直後には高く、それ以降は経年的に低下していくようである。

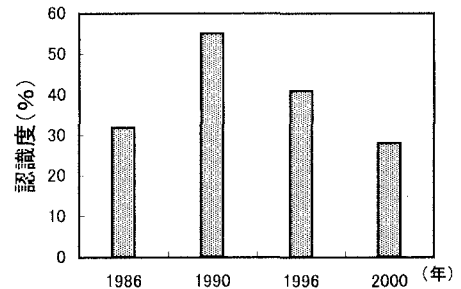


図-1 養浜の認識度

図-2～4には、1996年と2000年の調査結果のうち、二色の浜海水浴場の改良された点、悪化した点および周辺環境に対する利用者意識を示した。図-2および3の整備事業によって改良された点と悪化した点についてみると、いずれの年も改良された点では施設に関するものが、また悪化した点では管理・運営方法に対するものがそれぞれ多いことがわかる。さらに、これらを1996年と2000年とで比較してみると、改良された点では、1996年に比べ2000年には「全体的にきれいになった」と答えている人の割合が約10%増えている。これは、阪神高速道路の高架下やその背後の公園が整備され、海水浴場と一体の施設として利用できるようになったためであろう。図-3の悪化した点については、「ゴミが増えた」と答えた人の割合が14%から32%へと約倍増している。二色の浜海水浴場における7月と8月の入場者数は、1996年が約52万人、2000年が約38万人であり、海水浴場の利用者はかなり減少しているにもかかわらず、悪化した点に「ゴミの増加」と答えた利用者がほぼ1/3にも達している。図-4の周辺環境については、「全体的にきれい」や「松林があつてよい」と答えた人の割合が、1996年に比べ、かなり増加している。一方、1996年には「自然が

Hiroaki SHIMADA, Masao INOUE and Kazuya KUSAKA

少ない」と答えた人が22%もいたが、2000年には2%に減少している。これは、前述したように高速道路背後の公園が整備されたためであろう。また、整備事業によって砂浜の背後に植栽された松が、4年の時間経過によって、成長してきたことも一因であろう。さらに、最近では海水浴とともに公園や高速道路の高架下などでバーベキューを楽しむ利用者也増えており、それに伴い「公園があつてよい」や「日陰があつてよい」と云う意見も多くなってきている。

図-5は、「海水浴場を維持・管理していくために、あなたは1回の利用料金をいくら程度なら支払いますか」という質問に対する回答である。すなわち、二色の浜海水浴場の利用価値を示したものと考えられる。これによると、利用者の59%が500円未満なら払えと答えている。また、駐車料金が600円であることから、合計1,000円程度までなら払えると考えている利用者が多いと思われる。図示はしていないが、年齢別にみると、40代までは年齢が高くなるにつれて1回に支払っても良い金額は高くなるが、50代以上になると若干低くなっている。これは、40代の利用者が海水浴場に来る動機として、「家庭サービス」と答えた人が多いことから、家族で楽しく過ごせるのなら、多少金額がかかっても良いと考えているためであろう。

以上、養浜の認識度は経年的に低下すること、二色の浜海水浴場の利用者は、海岸環境整備事業に対しておおむね好い評価をしていること、海水浴場の利用価値として駐車料金と合せて1,000円程度と考えていることなどを明らかにすることができた。

最後に、本研究を行うにあたり、種々のご協力をいただいた大阪府土木部港湾局および二色の浜公園事務所の関係各位、ならびに現地調査に大いに助力してくれた、関西大学海岸工学研究室の学生諸君に謝意を表する。

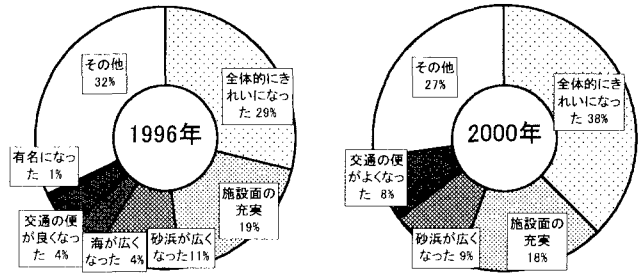


図-2 改良された点

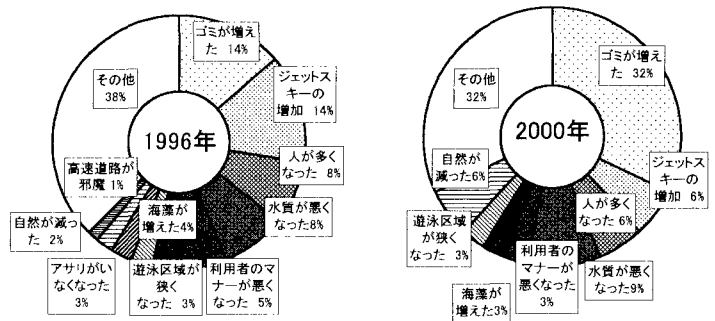


図-3 悪化した点

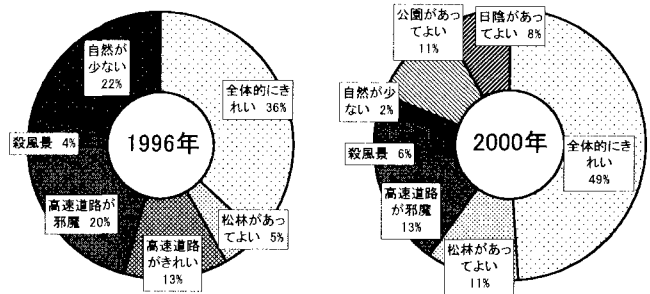


図-4 周辺環境に対する利用者意識

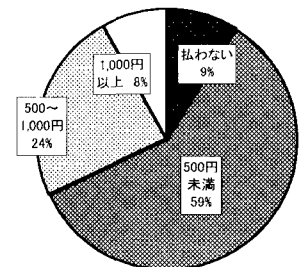


図-5 利用価値